

「全歴研参加記」

—視野が広がる体験—

中央大学附属横浜中学校・高等学校 柴 泰登

全国歴史教育研究協議会 第64回研究大会（東京大会）

2023年7月27日(水)～29日(土)の3日間にわたって開催されました。本大会はなかのZEROホール西館を会場としつつ、オンラインでの参加も可能なハイブリット形態で実施されました。私も部活動の関係で今回はオンラインでの参加となりましたが、それでも大きな刺激をいただきました。

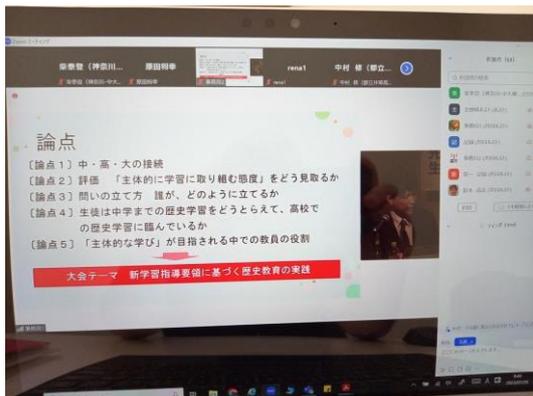
初日は総会および各分科会が行われました。私は第2分科会に参加させていただきましたが、「初年度からこんな面白い歴史総合の授業を実践した人があるのか」と尻込みしてしまうほど素晴らしい報告が続きました。特に丸山優介先生(都立翔陽高等学校)の実践報告は、私自身もイメージマップの重要性を生徒に日々説いているので、特に参考になりました。

2日目はシンポジウムと記念公演が行われました。午前に行われたシンポジウム(第1分科会)では、中学校の実践報告をしてくださった永井利光先生(東京都中野区立明和中学校)の発表が新鮮でした。中高一貫教育校にいながら中学校の学習指導要領については不勉強で、いつも「中学生という発達段階でどのような授業をするべきなのか」を試行錯誤している自分としては、大きなヒントを得ることが出来ました。

そして午後に行われた記念講演では五百旗頭薫先生(東京大学大学院)が登壇され、「話をそらすことの効用と危険 近現代日本の外交と政治」と題してご講演されました。そこでは政治における「源泉への遡行」の重要性と危険性を知ることが出来ました。「一直線を良し」とする一方で、「重要な問題は先送りして臭い物には蓋をする」昨今の政治の在り方には個人的に危惧を感じており、私はその気持ちを質疑応答でぶつけたのですが、五百旗頭先生も同じ意識を共有しており、かつそれに関する世界の現況を明快に説明してくださったのは大変嬉しかったです。

なお、今回はオンライン参加かつ学校業務があったため3日目には参加できませんでしたが、「東京の事件史をめぐる～『歴史総合』の授業づくりに向けて～」と銘打たれた、上野出発の実りある史跡見学となった模様です。

本大会の運営・発表に関わった東京都の先生方、お疲れ様でした。このような機会をいただく度に教員としての視野が広がり、多くの気づきが得られます。本当にありがとうございました。



「関歴研参加記」

—初めての富岡製糸場見学—

中央大学附属横浜中学校・高等学校 柴 泰登

令和5年度 関東歴史教育研究協議会群馬大会

2023年12月16日(土)、富岡生涯教育センターにて開催されました。今回は午前には授業実践報告を2本、午後に講演と史跡踏査が実施されました。

最初の植原督詞先生(伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校)が発表された『『歴史の教訓』への対抗をめざす類推批判学習の実践と成果』は、最新の教育メソッドをふんだんに取り入れた意欲的な授業実践報告でした。「我々は歴史から教訓を学ぶ」という、歴史教員がつい強調してしまう歴史教育の意義自体に疑義を発し、「歴史の教訓」の危険性とその向き合い方を生徒に自覚させていくスタイルの授業の報告は斬新なものでした。

次の坂木雅啓先生(群馬県立桐生清桜高等学校)の発表「中世パレスチナにおける対立と融和を題材とした授業実践報告」は、坂木先生の温かいユーモアに富んだお人柄が発揮されて和やかなものとなりました。その中で、坂木先生を起点として生徒の歴史への興味関心の低さや史資料の収集と吟味に苦しんでいるという悩みが質疑応答時に教員間で共有され、それについて意見交換が行われる貴重な時間が持てました。

午後はまず、栗谷好子先生(群馬大学共同教育学部)によるご講演『『歴史総合』の授業をいかにデザインするか』が行われました。長い中高教員としての経験と歴史教育に関する豊富な知識を駆使した多角的な発表でした。この発表のおかげで私は、「市民教育論」の立場に立ち、構成主義の姿勢で生徒の公民的資質を醸成することの重要性に気付くことが出来ました。

講演後は、世界遺産に登録された富岡製糸場への史跡見学に向かいました。熟練したガイドの案内のおかげで、なぜこの地に製糸場が建てられたのか、工場建築のための資材がどのように確保されたのか、また当時の工場運営の実態や、最終的に富岡製糸場が世界遺産に登録された経緯などを知ることが出来ました。私自身は日本の歴史に不勉強で現地で驚かされることしきりだったので、特に初めて見た紡績機が予想よりも大きく迫力があり、百聞は一見に如かずと思った次第です。

本大会の運営・発表に関わった群馬県の先生方、本当にお疲れ様でした。次回は栃木県での開催とのこと、新たな知見を得られることを楽しみにしております。

